

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290300070		
法人名	医療法人 済家会		
事業所名	グループホーム長庚堂Ⅱ		
所在地	長崎県島原市弁天町一丁目7063番地		
自己評価作成日	平成30年6月7日	評価結果市町村受理日	平成30年8月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成30年7月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体法人の医療機関と協力体制にて他職種との連携共有ができていて、利用者様、ご家族様には安心につながっている。また、施設は商店街、公園など近隣に立地していることから、買い物等、郊外にも出かけやすく、交通の利便性も良い。町内会にも入っており、市民清掃や防災訓練にも一緒に参加していると共に、自分の庭に咲いた花等を持って来て下さり玄関に飾ったり、イベントへの案内の声を掛けて頂くような交流も深めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

眉山の麓、古い街並みが残る島原の中心部に当ホームはあります。ホーム周辺には地域の商店街やパスターミナルなど地域の人々の生活に欠かせない建物が並び、入居者が歳を重ねても見慣れた場所やなじみ深い風景の中で生活が継続できる様子が窺えます。職員は、入居者や家族に寄り添う姿勢で支援を行い、個々にとって大切にしている想いを理解しながら入居前の生活や人の繋がり等、その人らしさを失わないケアの実践に努めています。ホーム独自の専門性を高める研修を重ね、職員の細かな観察力や丁寧な関わりによって安定感を感じさせる介護が提供されています。入居者の暮らしを職員全体で支える姿勢を持ち、職員同士が互いに尊重しながら声を掛け合う様子も確認できました。年々入居者の介護量が増え、支援の状況も刻々と変化する状況にありますが、老いても現役として活躍できるようそれぞれの思いを理解しながらケアを実践されているホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 長庚堂Ⅱ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し穏やかで、安心して過ごしていただけるよう心掛けている	入居者が歳を重ねてもその人らしさを失わないよう職員は理念を共有し、家庭的であたたかな雰囲気の中で生活していただけるよう支援に努めています。管理者は会議の中で支援の方針を伝え、地域との連携を図りながらやさしい言葉かけやゆっくりと接する時間を多く持ち、支援の方向性を職員間で話し合いながら入居者に寄り添い支援されています。	現在、ホームの理念を掲げ、職員も目指す介護の方向性は理解がなされていますが、職員ごとに理念の受け取り方に差異がある様子が窺われます。職員が明確に理念を理解し、ケア場面に理念が具体的に生かされることが重要と考えます。今後、更に理念への理解を浸透させ、更なるケアの質の向上に繋げる取り組みに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会からイベントの案内を頂いている。また、市民清掃にも一緒に参加交流している	ホームは地域の方々と気心を通わせることを大切に捉え、地域の活動に積極的に参加しながら地域社会に溶け込むよう努めています。職員が地域の高齢者世帯へ足を運んだり、介護相談を受け専門機関へ繋げる橋渡し役を担うなど、地域を理解しながら役立つ活動がなされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議はもちろん、学生の福祉体験学習の受け入れや、母体法人と共に、研修会も行い 理解を得る様にしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議に参加されている、各々の立場から意見や アドバイスを受けサービス向上に活かしている	運営推進会議では家族や地域住民との意見交換の場として大いに活用され、地域や家族の考え方等意見の集約に繋がっています。穏やかな雰囲気の中でホームの現状報告のみならず、自宅での介護に役立つ情報や専門性を持った介護の方法などの情報発信を行いながら、ホームの理解を深める取り組みがなされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	島原支部・半島協議会を通じ協力体制に繋がったり、きがるに事業所の相談、サービスについて 連絡を取れている	ホームは介護現場での出来事や困難さについて積極的に声を上げながら、市町村との連携に努め、介助者や介護される本人にとって生活しやすい環境作りに努めています。市町村担当者とも気軽に相談できる関係にあり、推進会議や電話等で直接尋ね指示を仰ぎながら情報提供と共有に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の指針を下に、研修会、勉強会にも参加し職員間で共有し取り組んでいる	ホームは拘束をしないケアの実践に努め、面会ごとに心身の状況を伝えながら対応方法の相談や家族の意向の把握に努めています。入居者の重度化に伴い動作の見守りの必要性が高い現状にありますが、職員は入居者の行動を目で確認し、人員配置や安全な環境を整えながら見守りの強化に努め、専門性を持った関わりで入居者本人が安心して生活できる環境づくりに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の指針を職員間で共有し勉強会にて意識付けをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	母体法人にて年間勉強会予定に基づいて、学び理解できるように努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に十分な説明を行い納得いくまで理解して頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時や電話にて意見、要望を伺い、反映に心掛けている	管理者や職員は、家族の面会時に雑談の中で日頃の暮らしぶりや現状を伝え、入居者本人が住み心地の良い環境が作れるよう支援に努めています。些細な変化や出来事等を家族に伝えることで家族の不安解消に繋げ、家族と相談を重ねることで心をほぐし、信頼関係の構築や気兼ねない付き合いに繋げることができています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や朝の申し送りの時間等に話し合う時間をもて反映させている	管理者は運営や勤務体制を始め、入居者の状態や介助の方法等職員の気づきや声を丁寧に受け止め、話し合いや母体と相談しながら課題や困難を迅速に解決に繋げるよう努めています。職員は業務の振り返りや次に繋げる向上心が強く、お互いを認めることでよりよいチームワークや安定した介護の提供にも繋がっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	母体法人の総務にて把握しており、また施設環境は定期的に見回り整備している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人の院内研修チームにて年間、定期的に勉強会を開催にて参加し、グループホーム連絡協議会でも研修の場を設けている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原半島連絡協議会のネットワークにて情報も得られ、風船バレー大会や研修会等で情報交換や交流の場ができています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談し、ゆっくりと聞き取りを行い安心へ繋げる関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に面談し、ご家族の要望等や思いを聞き 対応できるよう、不安の軽減に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントをする事で必要な支援を見極め、対応するようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ施設で暮らす、仲間または家族となり、接するよう心掛けて対応している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の状態を、ご家族様と共有し、墓参りや 自宅での過ごす時間や施設内でも触れ合う時間を持ち、良い関係を築かれている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会を楽しみにされている利用者様もおられると共に、希望では親戚の慶弔行事にも出席できるよう支援している	ホームは、入居者がホームに移り住むことによって生じる心身の負担や活動域の縮小が心身機能低下につながることを意識し、馴染みを消し去らないよう努めています。本人の意向と家族の考えを確認しながら入居前の町内会や友人との関わりを持ち、住まいがかわっても以前の場所での存在や、その人らしさや自信を大事に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他利用者様の事を気遣い、言葉かけやお世話を される方もあるが、性格的に他利用者様とうまく交流できない方もおられ、職員が間に入り支援に 努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	面会に行き、必要に応じては、ご家族様からの相談にも対応するようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や表情から、本人の思いを察し、職員間で共有する事で意向に沿うよう努めている	職員は、半年に1回程度の頻度で入居者の思いや暮らしの方針を丁寧に聞き取り、書面に示しながら職員間の共通理解に努めています。職員は入居者の表情や些細な言葉に耳を傾け、また家族の心情を把握しながら入居者や家族が望む暮らしの実現に向け取り組んでいます。入居者の仕草で次の行動を把握し、思いを受け入れるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族からアセスメントの聞き取りや担当関係者から情報収集することにより把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り時に情報交換を行い現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人記録により状態を把握し、職員間で共有している。また、面会時や電話等で状態を伝え、ご家族の意見を反映しながら計画作成している	職員は入居者がよりよく暮らすための課題を職員間で話し合いながら検討し、意向やアイデアを介護計画に反映させながら現状に即した計画の立案に努めています。書類の記録に関しても書き方の差異が出ないよう職員間で指導がなされ、丁寧な記録に繋がっています。計画の進捗状況は毎月評価され、心身の状況に応じて追加変更しながら臨機応変な対応がなされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や申し送りにより、日々の状態変化等を共有しながら、介護計画の見直しや実践に生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急に親族の訃報があり、通夜等への送迎を行ったり、自宅への外出を希望されれば、ご家族の希望時間に合わせ送迎したりと柔軟な対応サービスに心掛けている。母体法人の他職種のアドバイスもご家族様へ行う事ができている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市や町内会からの情報は得られ、希望があれば 随時対応している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的なかかりつけ医の診察、検査また、臨時での受診にも対応している。また、ご家族同伴の必要がある時は一緒に同行して頂いている	母体より週1回の訪問看護や月2回の主治医の往診があり、小さな症状の変化にも柔軟に対応できる体制は本人や家族の安心につながっています。安易な入院や薬剤投与による心身のダメージを理解し、入院後は症状が落ち着いた段階で主治医に相談し、退院後の支援の体制を整えながら早期退院支援に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体法人から定期的に訪問看護を受けており、また異常時にも相談、助言を頂いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人、ご家族の意向を尊重し、早期退院に向け 担当看護師、担当医と連携共有に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化し、医療が必要となった時は、ご家族、担当医と相談しながら支援に努めている。終末期の対応については、入所時に本人、ご家族様に説明し確認をしている	現在は母体での看取りが主となっていますが、重度化した際の対応や意向をその都度確認し、ホームで支援できるぎりぎりまでを過ごしていただいています。ホームでは、身体の負担を考慮しながら本人らしい生活を過ごし、徐々に変化してくる体調の変化を家族と共有し、家族との時間や食事形態など話し合いを重ね、本人や家族の不安に寄り添い対応がなされています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署救命士からの救急蘇生法や応急手当に訓練を定期的を受けており、また母体法人での 勉強会でも学ぶようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	防火管理者の指導の下、年2回、消防署立ち合いで訓練を行うと共に、母体法人での訓練にも参加している。また、地域の消防団の方にも参加して頂き、施設の内部、利用者様の状態把握に協力体制を築いている	定期的実施されるホームでの訓練の他に、母体での避難訓練などに参加しながら初期消火や通報、避難誘導等一連の動作が体得できる体制が整備されています。今回は運営推進会議を通して自然災害時における地域の考えの集約を行い、有事の際の母体での地域住民の受け入れ体制の整備に繋がりました。地域からは消防団の訓練参加もありホームの理解が得られています。地震や水害時等の対応を振り返り、現在は防災計画の作成見直しが行われています。	現在、訓練の参加や自主訓練の実施など避難誘導が体得できる体制や、消防計画、防災計画に沿った訓練の実施がなされていますが、職員によって有事の際の役割分担の把握や危険個所、ハザードマップの確認など認識の差異が生じているようです。定期的な読み合わせの実施や周知を行う等、更に実効性の高い訓練に繋がることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導や排泄時の言葉かけは本人のプライドを傷つけないように配慮するよう心掛けている	管理者や職員は、入居者にとって身近な存在である中にも言葉遣いや接し方に注意し、「そんな風に言われると自分だったらどう感じるか」を振り返り支援に努めています。職員は常に見られていることを意識し、自分では気づかない対応や声のトーンなど、職員間で互いに注意し尊厳を大事に関わるよう努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にコミュニケーションを図りながら、自己決定しやすい雰囲気作りを心掛け対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活スタイルを尊重し、一緒に楽しむレクリエーションや行事も参加の有無は無理強いほしない		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服を助言し、本人に選んで頂いている。また訪問理容師さんに、ご本人の要望を伝え散髪して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食堂兼リビングと台所が併設しており、会話を楽しみながら、食事の準備の手伝いもされたりメニューの話題にもなり楽しみを持たれている	職員は食事の支度や日常生活を入居者と共に行うことを意識して関わり、ごぼうの笹がきや食器の後片付けなど入居者ができる範囲の役割を担いながら生活の場を意識した支援に努めています。管理栄養士が立てた栄養バランスが整った献立は、料理から季節感を感じることができ、手作りで調理される音やにおいを身近に楽しみ、家庭的で温かみを感じる生活環境造りに努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体法人の管理栄養士が作成した献立表にて調理を行っており、訓練士の訪問もあり、嚥下等の相談、アドバイスを受けている。また本人の状態や季節に応じた水分補給も確保できている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、見守り、介助にて歯磨きを行っており、就寝まえには義歯の洗浄消毒も必ず行い保清に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて把握し、声かけ、誘導を行っている。しかし重度化にて、意思疎通が困難でオムツ交換の利用者様もあり、自立に向けた支援が厳しくなっている	職員は入居者の心身の状態を観察し、入居者の表情や仕草を確認しながら、その入居者にとって最適な排泄方法が検討されています。立位や座位等運動機能面に対する課題が生じた際は、母体の専門職より心身の状況に応じた排泄動作の助言を受け、安全な方法を職員間で共有しながら排泄動作が維持できるよう努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて把握し、水分を促したり、運動腹部のマッサージも心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴び以外でも必要に、希望に応じてシャワー浴もやっている。また、柚子風呂などを取り入れ楽しみにもされている	入浴の際には、まず入居者と職員が入浴後の衣類準備から始め、本人が着たいものを自分で選ぶ等意思決定ができる機会を作るよう努めています。洗身では入居者本人の持つ力を優先し、寛げる雰囲気の中で洗身の手順を忘れてしまわないよう職員が声かけし支援がなされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	テレビを観ながら眠られたり、職員の側で眠られるなど、個々に対応支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を、いつでも確認できるよう個人記録に添付しており、服薬マニュアルに沿って服薬して頂いている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の下ごしらえやテーブル拭き等、その人の力に応じて手伝いもされ、趣味の継続ができ、また季節の行事や誕生会などを取り入れ気分転換に繋げている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩、お墓参り等、希望に沿って支援しお花見やソーメン流し等の季節感も味わえるように支援している	同じ地域に母体医院があることや、近隣に商店街があることから、日常的に車いすで地域を散歩する機会も多く、入居者が住み慣れた地域の光景や四季の移ろいを身近に感じることができる住環境にあります。移動中に地域の方と入居者が言葉を交わすことも多く、これまでの生活が入居後も継続できるよう努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で必要最小限の現金を所持されている方は 外出時や移動パン屋さん等で自分で選び買う楽しみも持たれている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば自由に、電話を掛けたり、ご家族からの絵はがきを楽しみにされている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓の明るい食堂と廊下になっており、玄関には季節の花や、居室の入り口にも写真入りのプレートに季節感の飾り付けの工夫をしている	天窓から差し込む日差しは入居者の食卓を明るく包み込み、また職員によって丁寧に整頓された調度品や家具からは清潔感が感じられ気持ちの良い空間が準備されています。入居者の身体状況に応じてテーブルの高さや足置きなどゆっくり過ごせる工夫も確認できました。人の目につきやすい掲示物や入居者の作品も手入れが行き届き、入居者がホッとしながら語らいができるよう心配りが感じられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング兼食堂は会話を楽しんだり、テレビ、新聞と各々に過ごされており、居室は個室にて自分の好きなスタイルで、ゆっくり過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で慣れ親しんだ家具等を配置され、ご家族との写真、自分で作成した作品を飾り、居心地の良いように工夫している	各居室は入居者それぞれに大切にしてきた家具や手回りに困り、入居者が入居前の日課や趣味活動ができるだけ継続できるよう準備されています。家具類は入居者が手の届きやすい向きや高さに調整され、活動に繋げやすい工夫がなされています。家族の協力を得ながらこれまで大事にしてきた思い出の品や家族の写真が飾られ、安心して明るく過ごせるよう配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	施設内はバリアフリーにて、廊下には手すりを設置し、また居室、浴室、トイレにはブザーを設置しており、必要な時は知らせる事ができ安心につながっている。		